

【ねがいましては】

平成17年4月7日

第175号

KYOWA SCHOOL

「母の愛」

ほとんどが「こころ」の面のことばかりの、この「ねがいましては」なのですが、最近特に世間を騒がせている「学力低下」という言葉。

先日、お2人のお母様から、興味深い資料をいただきました。ひとつは地元の小学校でのアンケート調査結果一覧。もうひとつがインターネット上の難関私立中学校の先生方の指摘。

地元小学校のアンケートの、ひとつのコメントが私を愕然とさせました。(教科書で削減されている所が多く、学力低下を不安に思っています。もっと宿題を出すなど、先生のやり方で学力向上を目指してほしいです。また、子どもたちにもっと順位をつけて競争させてほしいです。)

子どもたちは「ひと」です。こころをもった人です。子どもはペットでも機械でもありません。親の思うとおりに学力をつけられるはずがありません。勉強ができない一番傷ついているのは、当の子ども自身です。周りの人たちに言われなくても、充分すぎるくらいにわかっています。そこへ輪をかけるようにご家庭でお母さんの口から……。

順位などつけたらもっと大変です。150人いたら150番の子の気持ちを考えてください。大人ならどうでしょう。ある機械製造工場で、従業員たちの製品製造個数の順位が発表されました。150人中150番の従業員さんはどのような気持ちでしょう。もし、その会社の経営状態があまり良くなかったとしたら……。すかさず、150番さんは、従業員さんたち全員から白い目で見られるでしょう。同じひとつの会社ではないですか。みんなが協力し合って会社というのは成長してゆくのではないでしょうか。欠けているところは、みんなで繕い。儲かつたところは、みんなで分ける。奇麗事かもしれません、それが会社の理想の姿ではないでしょうか。

そっくりご家庭に当てはめてみましょう。子の欠けたところは、家庭の中の誰が先頭切って繕ってあげるのが一番でしょうか。お母さんに違いありません。子が精一杯に学校での生活を送っているのなら、その子を褒めるのにふさわしいのは、お母さんです。子もそれを望んでいるからです。母とはそのようなものであると思っています。

「150番か、そうか、母ちゃんと一緒だね。母ちゃんも中学校の時、悔しくてね。でも、結局1番の子を見返してやることはできなかったよ……。じゃ一、一丁やってみようか。母ちゃんも一緒に勉強するよ。1からやってみようかね。」

こんな言葉を聞いた子は、必ず自分の中から湧き上がるものを感じることと思います。いつでもお母さんが応援してくれている。それからというもの、その子は見違えるほどの変化を手にします。でも、順位付けのテストでは、やはり150位です。その子にはひとつの考えがありました。

「おれの母ちゃんは、おれのことしっかり認めてくれている。でも周りの子たちはそうではない子ばかり。だから、おれ、ビリとおけば、苦しむやつ少なくてすむから。」

あたたかい家族、しあわせは毎日です。この教室にはこのような子があふれています。ありがとうとしか言いようがありません。先日、ちょっと聞いてみました。

「学校のテストで、選びなさいの問題の時に、わからなかつたら何も書かないひといるかな。」

「はい。」

いるんです。ありがとね。

もうひとつ、ある企業の教育研究所での調査では、最近、難関私立中学に合格しながら中学で成績が伸びない子どもの共通点とは? ということで結果が出たそうです。難関私立中学校で、実際に教鞭をされている先生の生の声です。「志望校合格で気持ちが燃え尽きてしまい、中学での学習意欲が湧かない」「勉強さえできれば、塾でも家庭でも『王様』なので、自信過剰気味になる」「妙にプライドが高く、友人を成績で評価するなど、精神的に幼い」「挨拶ができない、敬語が使えないなど、基本的なしつけがない」だそうです。

この研究所は結論としてこう結んでいます。

『勉強最優先の保護者の姿勢が、子どもの学力低下をまねく』……と。

ここは「こころ」を育てるところ。ここは「やさしさと思いやり」を育てるところ。

この春休みの「くりたのランチ」も、驚くほどの賑わいをみせました。子どもたちの瞳は、日に日に明るさを、輝きを増しました。この変化をみると、なんとも言えぬ嬉しさを感じさせていただいております。

子どもたちへ……「ありがとう」そして無償でお手伝いいただいた「すみえねえちゃん・さゆみねえちゃん」……ありがとう。そして天国へ旅立っていった「けいちゃん」……ありがとう。

「けいちゃん」……コニャンコのときにやってきた「けいちゃん」、15年間もの間、栗田と多くの生徒たちに癒しを与え続けました。4月3日、教室前で「ひき逃げ」に遭い、天国へと旅立ちました。ありがとう。安らかに。